

2章．柳瀬川流域のあらまし

2章．柳瀬川流域のあらまし

2.1 流域諸元

柳瀬川は、荒川水系新河岸川の一次支川です。全長は19.6km、流域面積は95.5km²となっており、新河岸川の支川の中では最も大きい流域です。

表 2-1 新河岸川流域諸元表¹

本 川	一次支川	二次支川 三次支川	法区間 流路延長 (km)	流域面積 (km ²)	摘 要	
新河岸川			34.6	411.0	(狭山湖・多摩湖含む)	
	不老川			18.0	56.6	
	九十川			4.2	14.5	
	富士見江川			2.9	14.7	準用河川
	柳瀬川			19.6	95.5	
		東川		12.6	18.1	
		空堀川		14.0	26.2	
	黒目川			15.0	37.6	
		落合川		3.4	6.8	
		中沢川		1.4	0.9	準用河川
	越戸川			3.6	7.9	
		谷中川		0.5	4.0	
	白子川			10.0	25.0	

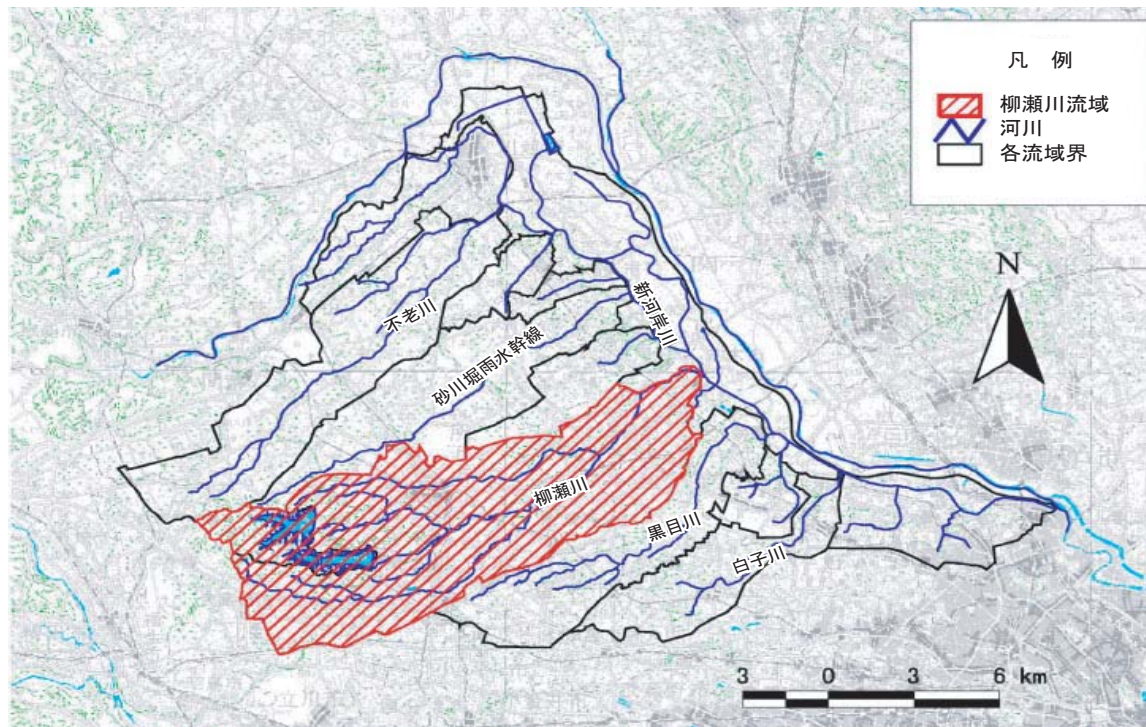


図 2-1 新河岸川流域と柳瀬川流域²

¹ 国土交通省荒川下流河川事務所資料より

² 背景 国土地理院:数値地図200000(地図画像)

柳瀬川流域には東川、空堀川、北川、奈良橋川、前川の5つの支川があります。

流域に係わる自治体は下表に示す13市町ですが、面積比率は所沢市が約40%、新座市、東村山市、東大和市、清瀬市がそれぞれ10%前後で、この5市で流域の約86%を占めています。

表 2-2 柳瀬川流域に関連する自治体と流域内面積³

自治体	柳瀬川流域内面積 (km ²)	柳瀬川流域に 占める面積割合 (%)
所沢市	41.2	38.7
入間市	1.6	1.5
朝霞市	0.3	0.3
志木市	2.8	2.6
新座市	12.1	11.4
富士見市	0.2	0.2
三芳町	1.6	1.5
立川市	0.7	0.7
東村山市	14.3	13.5
東大和市	13.5	12.7
清瀬市	10.1	9.5
武蔵村山市	6.9	6.5
瑞穂町	1.0	0.9
合計	106.3	100.0

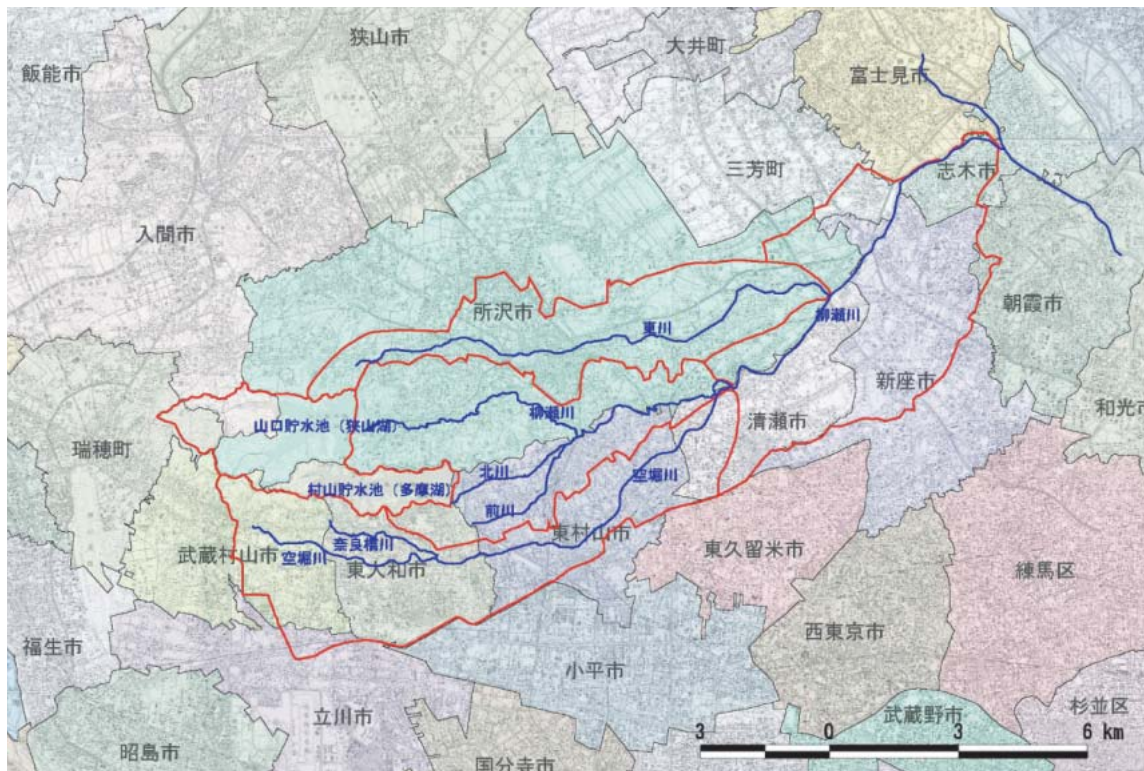


図 2-2 柳瀬川流域と関係自治体⁴

³ 国土地理院:1/50,000地形図 をもとに作成

⁴ 背景 国土地理院:1/50,000 地形図

2.2 地形・地質

柳瀬川流域の地形は、荒川・新河岸川および柳瀬川などの河川沿いの低地と南西側の武蔵野台地に区分されます。台地では、柳瀬川、東川、空堀川などによって樹枝状に谷地を形成しており、変化に富んだ地形となっています。

地質的には、流域のほとんどは関東ローム層で覆われた武蔵野台地からなり、透水性に富んでいます。また、柳瀬川の下流端付近の荒川と新河岸川で挟まれた低地部は、荒川などにより運ばれた泥や砂礫の堆積物で形成され、透水性はきわめて低くなっています。

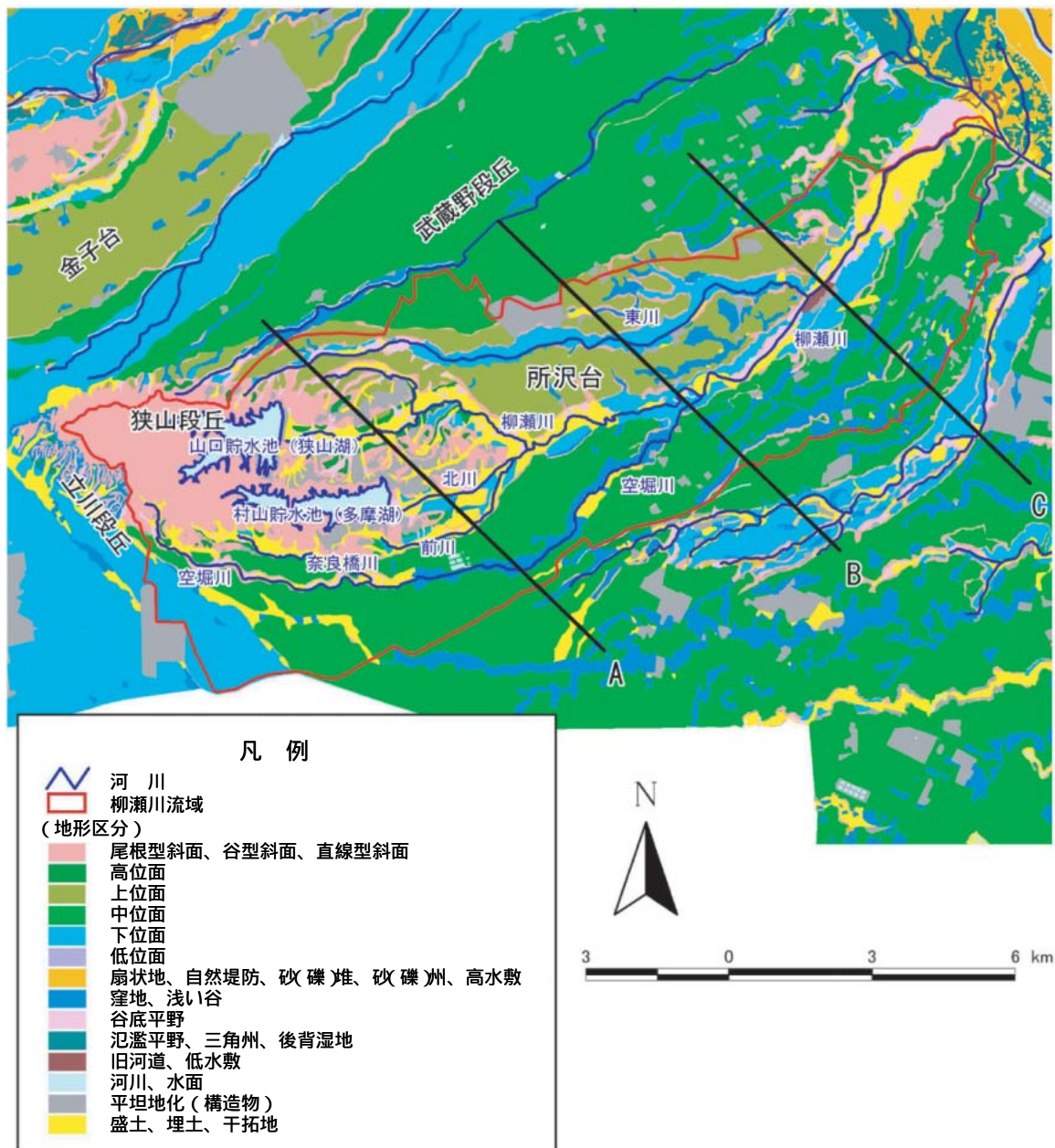


図 2-3 地形区分図⁵

⁵ 国土地理院:1/25,000土地条件図,昭和45年調査 をもとに作成

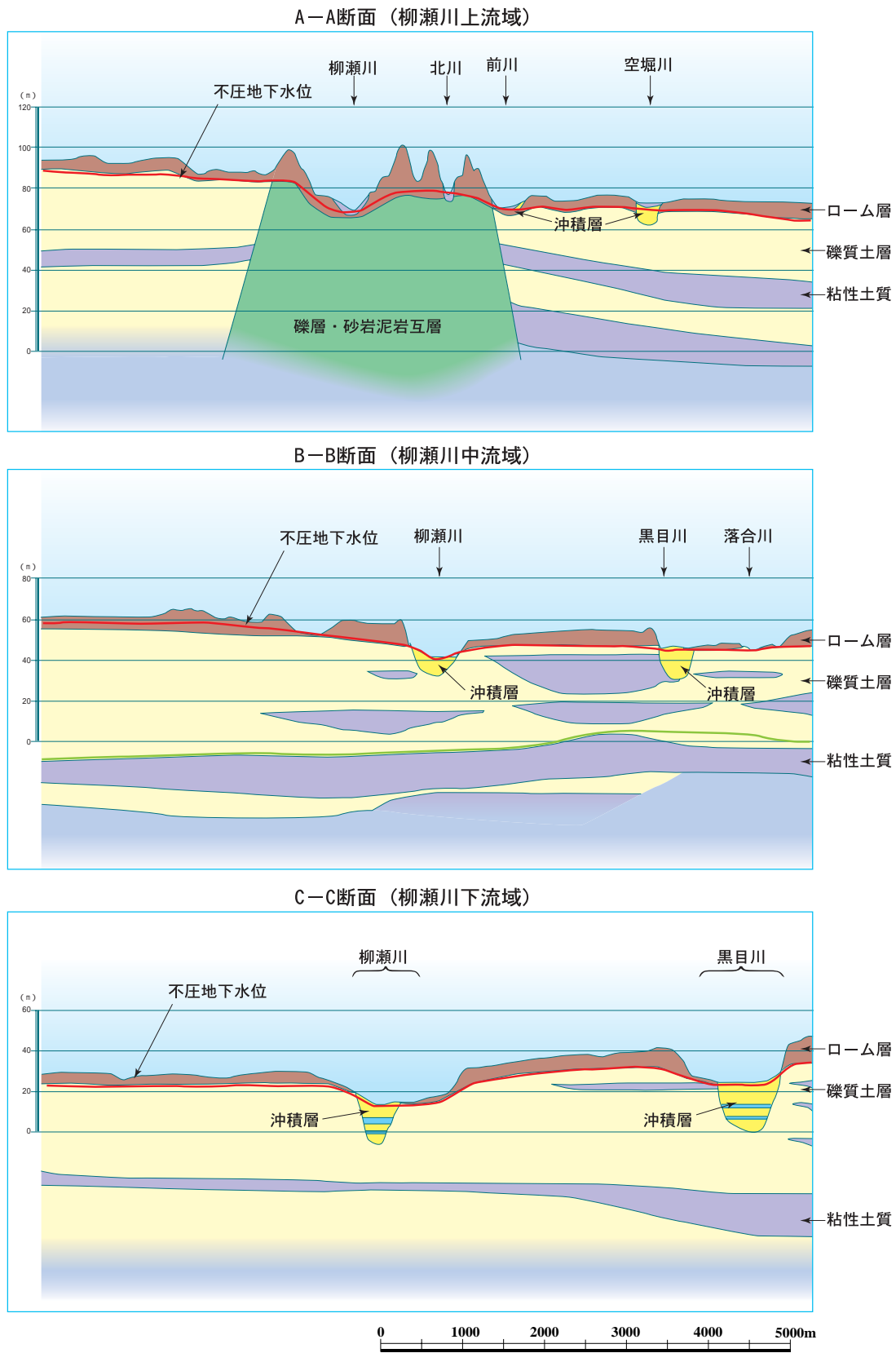


図 2-4 地質断面図(断面位置は図 2-3参照)

⁶ 国土交通省荒川下流工事事務所:平成5年度 新河岸川流域水循環計画検討業務 より

2.3 社会条件

(1) 流域土地利用

柳瀬川流域は都心部より20～30km圏内に位置するため、市街化の圧力は高く、現在55%程度が市街地として開発されています。近年では市街地の進展は緩やかになってきていますが、市街地が増加し、緑地が減少するという傾向は今後も続くものと見られます。

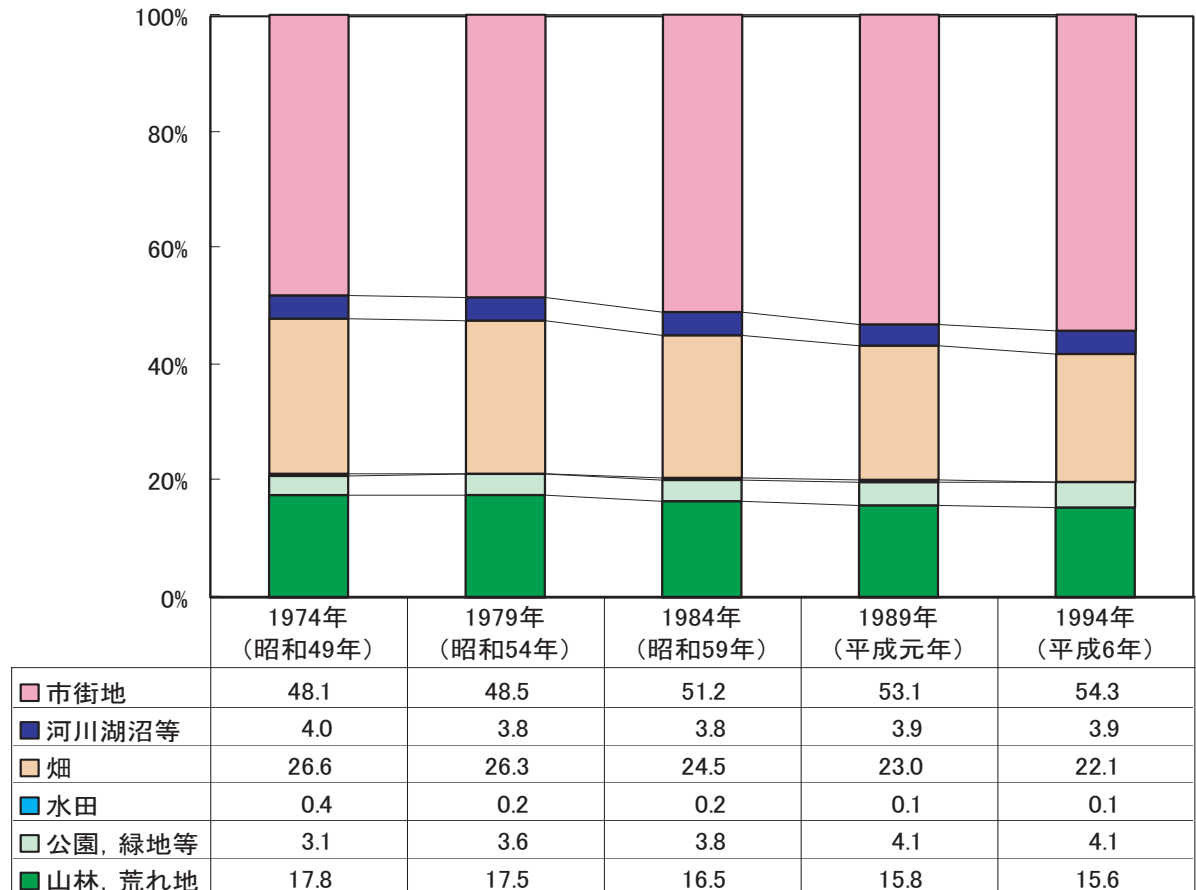


図 2-5 流域内土地利用の変遷⁷

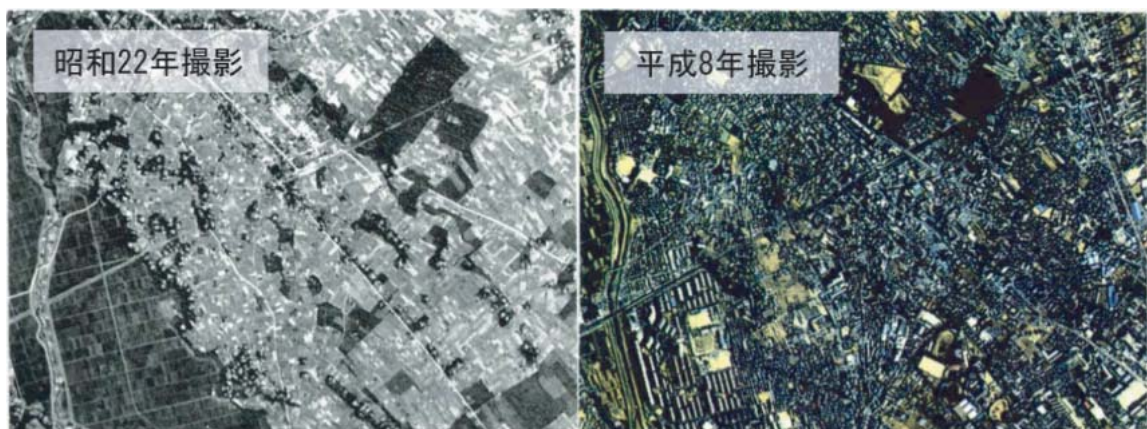


図 2-6 柳瀬川下流部の変遷⁸

⁷ 国土地理院: 細密数値情報(10m土地利用メッシュ), 昭和49年、54年、59年、平成元年、6年 をもとに作成

⁸ 昭和22年は米軍撮影、平成8年は国土交通省荒川下流河川事務所資料 より

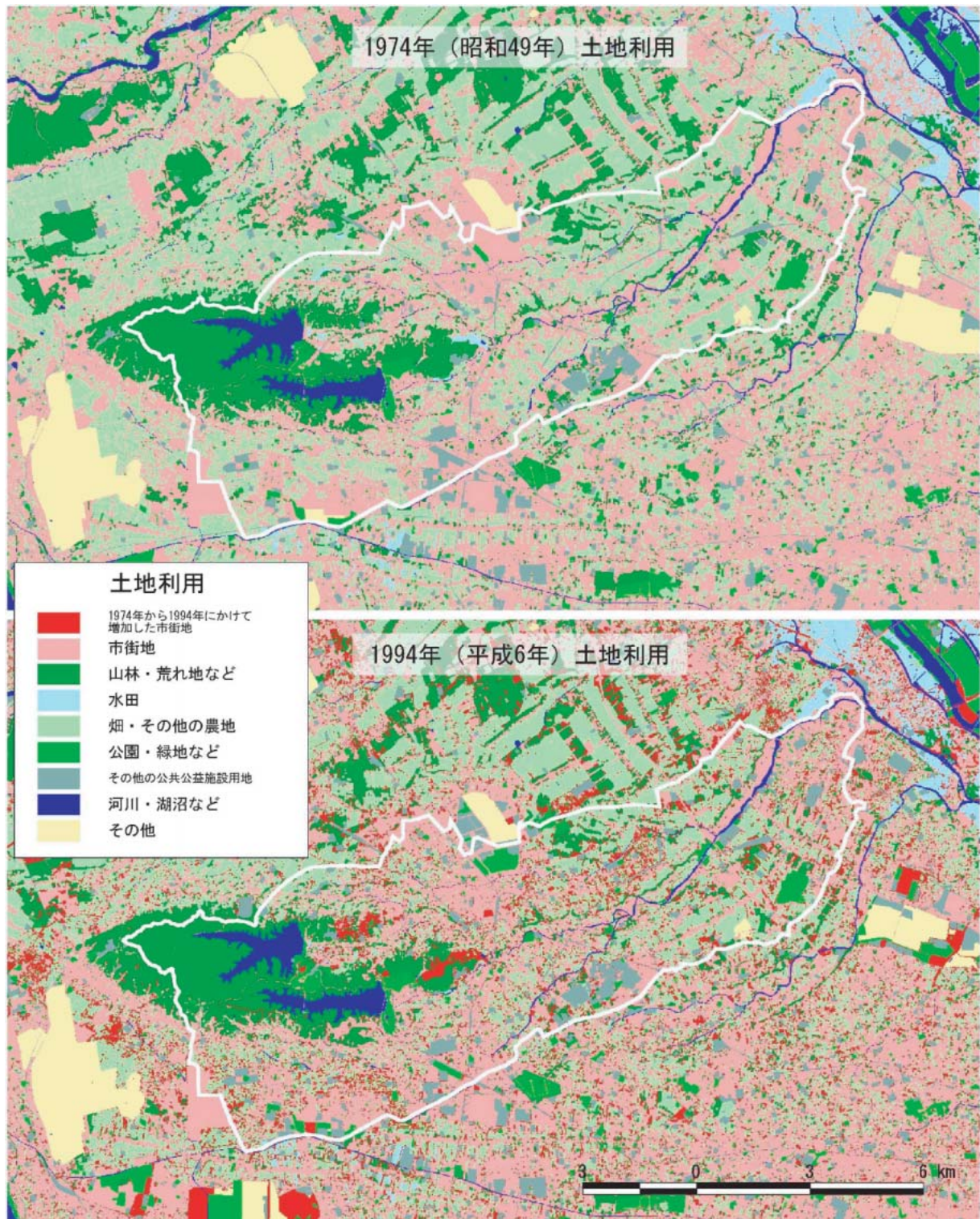


図 2-7 流域土地利用の変遷⁹

⁹ 国土地理院：細密数値情報（10m土地利用メッシュ）、昭和49年、平成6年 をもとに作成

(2) 人口

流域の市街化の進展に伴い、人口も増加してきています。高度成長期には東京への一極集中により、爆発的に人口が増加しました。近年の人口増加は緩やかとなっていますが、その傾向は今後も続くものと見られます。流域内人口は平成15年度で約63万人となっています。

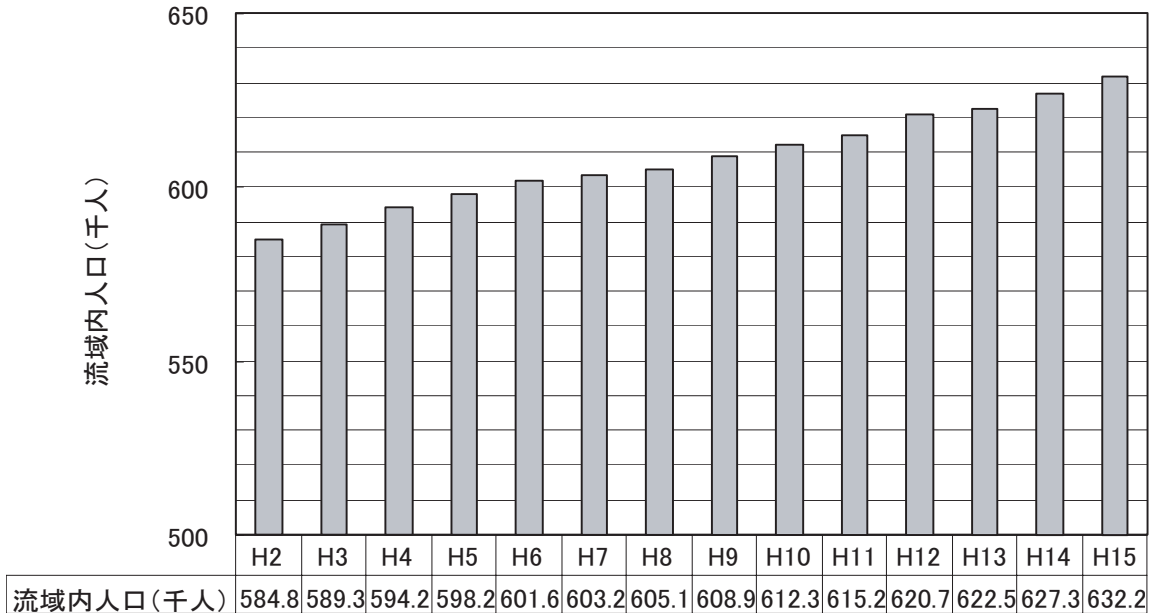


図 2-8 流域内人口の推移¹⁰

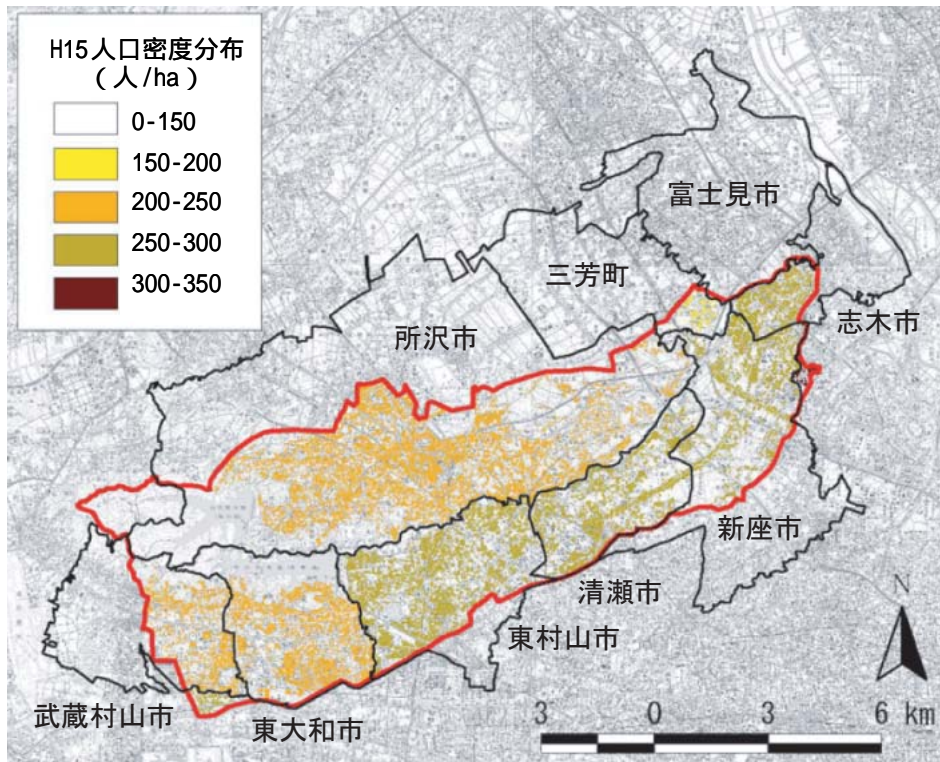


図 2-9 平成15年度人口分布¹¹

¹⁰ 東京都、埼玉県：統計年鑑，平成2年～15年 をもとに作成

¹¹ 背景 国土地理院：1/50,000 地形図

(3) 上水道

柳瀬川流域の上水道給水系統は以下のとおりです。

水源は利根川、多摩川など流域外のものがほとんどです。

流域内へは、東村山浄水場、小作浄水場（東京都）及び大久保浄水場（埼玉県）から給水されています。

利根川からは荒川を通じて大久保浄水場に給水され、多摩川からは小作浄水場へ給水されています。なお、東村山浄水場については、通常は利根川から給水され、使用水量の多い夏や利根川渇水時は多摩川から給水されます（原水連絡管）。

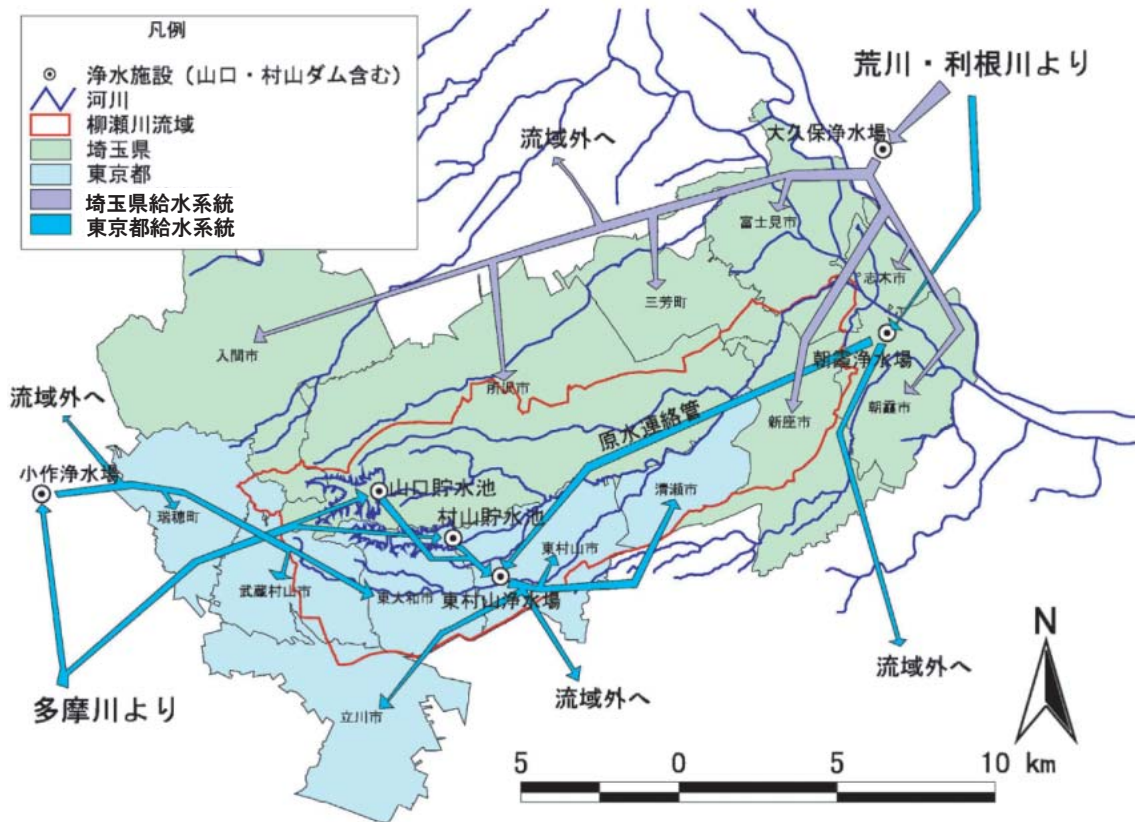
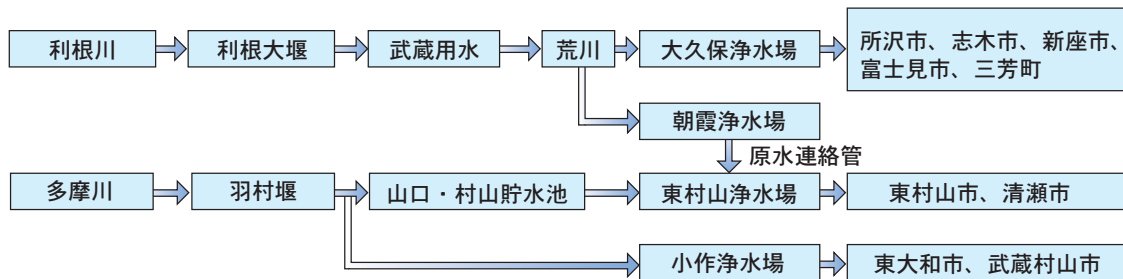


図 2-10 上水道給水系統模式図

(4) 下水道

柳瀬川流域の下水道(汚水)の排水系統は以下のとおりです。

所沢下水道処理場、清瀬水再生センター及び新河岸川処理センターの3箇所で処理されています。

所沢市の一部は所沢下水道処理場で処理した後、東川へ放流されていますが、将来は新河岸川処理センターで処理される計画となっています。

柳瀬川中流域より上流側の流域は、清瀬水再生センターで処理した後、柳瀬川に放流されています。また、流域外(東京都市部)からの排水も清瀬水再生センターで処理されています。柳瀬川中流域より下流は流域外の新河岸川処理センターで処理した後、新河岸川へ放流されています。

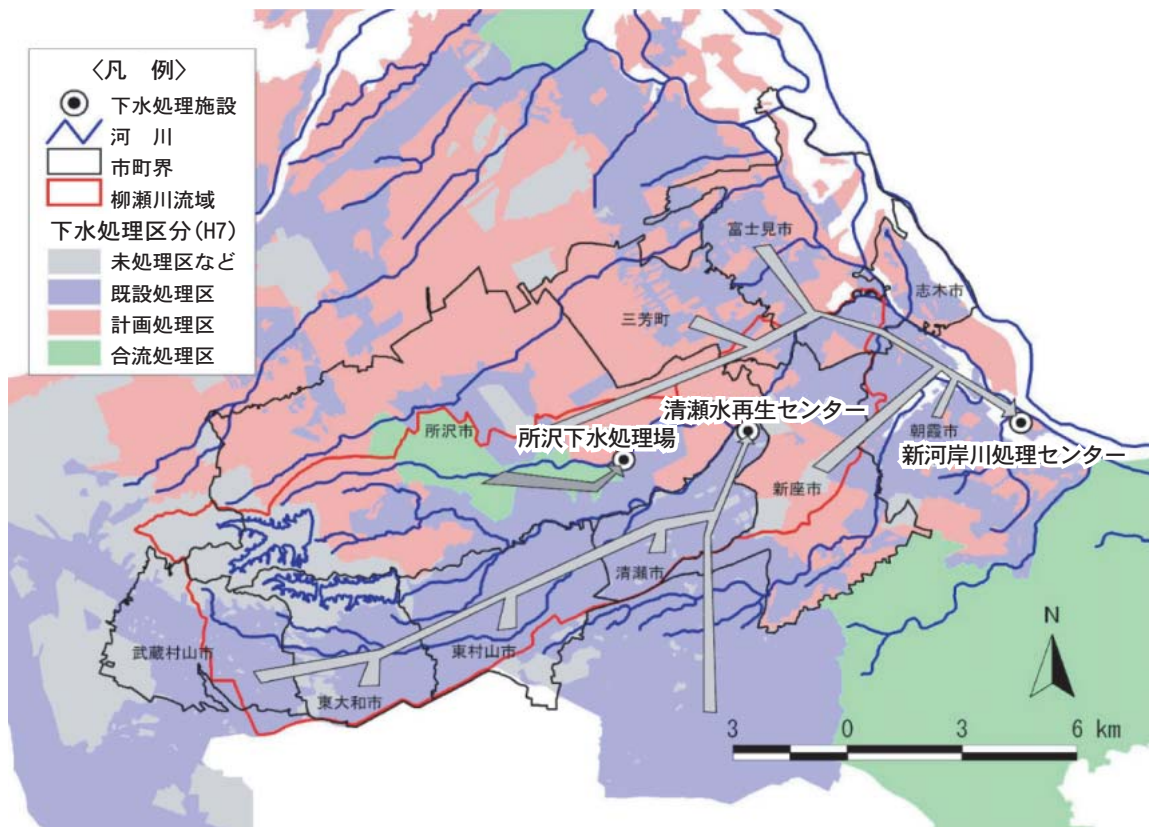
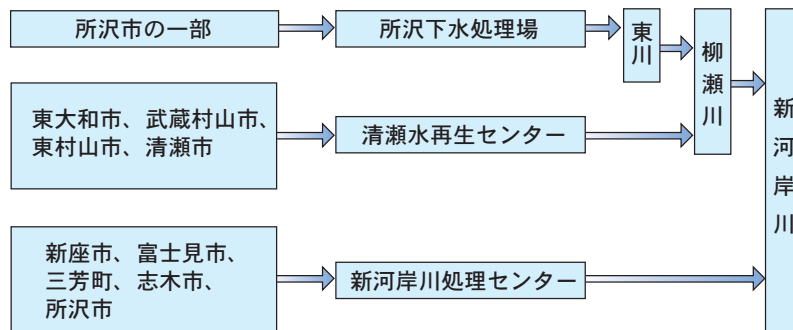


図 2-11 下水排水系統模式図

2.4 流域の歴史・文化¹²

柳瀬川流域は、狭山丘陵、武蔵野台地、沖積低地の3つに分けられます。

狭山丘陵は、湧き水が流れ出る谷部に集落が形成されていましたが、江戸時代頃から畑地が多く見られるようになりました。その後、畑地は桑畑に大転換され、今ではそれが茶畑に姿を変え、狭山茶として親しまれるようになりました。また、狭山湖、多摩湖は首都圏の水がめとして重要な役割を担っています。

武蔵野台地は、水はけのよい関東ローム層に厚く覆われており、江戸時代までは一面が草原でした。しかし、新田開発に伴って、井戸や野火止用水の開削による用水の確保と雑木林と一体となった農地整備(三富新田)による保水性の向上が図られるようになりました。今では鉄道や道路の整備が進み、首都圏のベッドタウンとして宅地化が進み、昔の面影は少なくなりました。

沖積低地では、沃土が洪水によってもたらされていたため、古くから稲作が発達し、周辺には集落が形成されました。一方で、洪水による被害も多く、水害との戦いの歴史も多く残っています。今では開発に伴う田んぼの減少と河川の整備により、川と人々のつながりが少なくなっています。

(1) 流域の歴史

1) 河道・水路と沿川土地利用の歴史

かつて柳瀬川流域では、生活に不可欠な水の得やすい場所に集落が分布し、自然がつくった地形条件に合わせて、低地の水田と台地の樹林地や畑を維持しながら、安定的な土地利用体系を守ってきました。このような土地利用体系は、昭和20年代まで維持されてきましたが、昭和30年代から急激な都市化の中で大きく変容しました。

2) 水害の歴史

柳瀬川下流域等の新河岸川の水路は「九十九曲がり」と呼ばれ、荒川本川沿いの地域とともに水害の常襲地帯であり、人々の生活や地域社会の成り立ちには、水害との戦いの歴史がありました。このような水害との戦いを通じて、宗岡地区(志木市)を囲む総囲堤(輪中堤のようなもの)や水塚¹³等の独特の工夫が生まれました。

水塚

屋敷内に1~2メートル盛土して倉や納屋を設けています。この塚とその上に構築された倉や納屋を含めて水塚といいます。

舟

大水が出たときの避難用として、天井に長さ2~3メートルの舟をつるしました。

タナギ

母屋の土間の上、約2.4メートルの高さに設けられ、大水が出たときに最初に避難する場所で、天井裏に9センチくらいの板を渡してあります。タナギは竹スノコの場合が多いですが、板材を置くことによって、人や物を載せても安定するようにしてあります。

タナギへの避難の際には、ノコギリ、カマ、サスガ(屋根葺きの際に使う小刀)を持ってあがります。これらは、タナギまで水に浸かりそうになったときに、わら屋根に穴を開けて屋根の上に逃げるために使われます。

¹² (財)リバーフロント整備センター:身近な川について考えよう 柳瀬川流域編,平成8年 をもとに作成

¹³ 「みずか」、「みづか」の両方の表記が存在する。

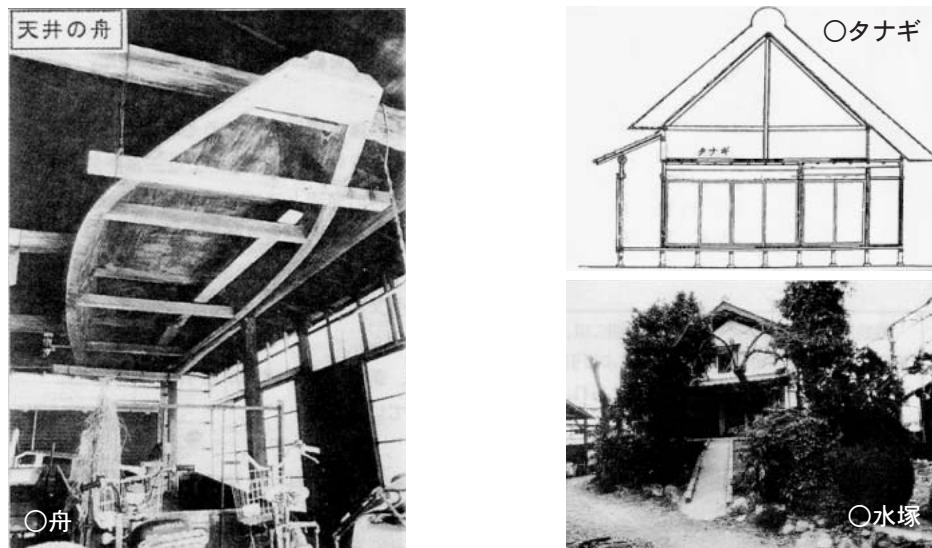


図 2-12 水害への備え

(参考) 明治43年の荒川大洪水についての聞き取り¹⁴

「7月から梅雨が続いて、いつもの年より雨の量が多かった。8月2日になって、再び梅雨の雨が降り始めた。9日になると雨ははげしくなって洪水を心配したが、11日になって雨はおさまり安心できると思ったら、新河岸川の水かさはどんどん増えていき、ついに堤防を越えてあふれ出した。また、この堤防のあふれたのに加えて、南畑方面から濁流がどんどん押し寄せてきた。後で知った話だが、川越の方で入間川の堤防が切れたということがわかった。12日の朝方には増水はさらに激しくなり、5尺(1.5m)を越えた。この高さになると、水塚もほとんど冠水してしまって、非難した家財道具も浸かってしまった。これまでは、水塚でなんとか防げる程度の洪水だったが、このときは違っていた。浸水は5尺に留まるものでなく、さらに増水していった。8尺(約2.5m)近くになり、タナギに避難していたが、とてもそれじゃすまなくなっただんで、屋根の上に逃げた。12日の夕方になると少しずつ水が引いていったが、13日の盆迎えにも1尺(30cm)ちかく水は残っていて仏様を迎えに行くどころではなかった。14日には再び増水して15日の送り盆だというのに、再び水は3尺(約1m)を越えた。完全に水が引いたのは20日ころだった。宗岡付近は洪水が来るから、土が肥沃なんだが、あの洪水じゃまいったな。稲だって1週間くらい水に浸かったって平気だし、水塚があったりタナギに逃げりゃ、たいがいの水がでて怖くはないんだがね。あの時の水害はひどかったな。米もだめになっちゃったし、財産もずいぶんとなくしたね。でも、この地区じゃあの水害じゃ一人も死人を出さなかったよ。まあ、おれら洪水と一緒に暮らしてきたようなもんだから、逃げ方は得意だよ。」

3) 舟運の歴史

最盛期であった江戸末期～明治初期には、「^{かし}河岸」は物資の集散と情報の結節点であり、流域の農産物が所沢市と新河岸川を結ぶ河岸街道(引又街道)により新河岸川との合流点に位置する引又河岸(明治7年以降は志木河岸)に集められ、江戸へと運ばれました。江戸からは肥料や塩、加工品などの物資と文化が流域に伝えられ、新河岸川の各河岸を中心に流域の生活圏が形成されていました。

しかし、正保4年(1647)に開始されて以来、約300年間、江戸と川越を結ぶ重要な交通路であった新河岸川舟運は、鉄道の開通とともに次第にその役割を失い、昭和6年(1931)に途絶えました。

¹⁴ 松本富雄: 流域の歴史についての資料(明治43年の記録を志木市の古老から昭和50年に聞き取った内容)

先石器	<p>○27,000年前 柳瀬川流域に人の暮らしが始まる。氷河期の影響を受けた気候の冷涼さからか、定住は困難であったようである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤久保東遺跡(三芳町) ・ 砂川遺跡(国史跡指定 所沢市)
縄文	<p>○12,000～10,000年前 氷河期が終わり、植物や動物相が多様化。弓矢や土器の発明が加わり狩猟や漁労、植物採集による生活が楽になる。食糧確保が可能になったことから、定住が進み、集落が形成される。</p> <p>○8,000～6,000年前(縄文時代前期) 現在よりも平均3～5℃温暖になる。海面が上昇し、海岸線は現在の川越市と上尾市を結ぶあたりまで入り込む。柳瀬川では、富士見橋あたりまで入り江が入り込んでいた。</p> <p>○6,000～4,000年前(縄文時代中期) 海岸線は和光市付近の低地あたりまで後退。柳瀬川付近には貝塚を持つ集落はなくなるが、台地に繁茂した植物や動物を狩猟採集する生活が展開される。これにより、柳瀬川下流から狭山丘陵付近まで集落遺跡の数が増加する。</p> <p>○4,000～2,300年前(縄文時代後期から晩期) 気候はやや冷涼化し、柳瀬川流域から遺跡は激減する。台地部ではなく、川の近くに集落が形成される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国指定史跡 水子貝塚 ・ 打越貝塚 ・ 殿山貝塚 ・ 針ヶ谷北通遺跡 ・ 羽沢遺跡(富士見市) ・ 古井戸山遺跡(三芳町) ・ 下安谷遺跡(所沢市) ・ 和田遺跡(所沢市) ・ 椿峰遺跡(所沢市) ・ 膳棚遺跡(所沢市) ・ 笹塚遺跡(東村山市) ・ 下宅部遺跡(東村山市) ・ 日向北遺跡(東村山市)
弥生	<p>○2,000年前頃 稲作や鉄器を伴う技術が大陸から伝わり、柳瀬川流域にも弥生式の集落が出現する。下流左岸側にいち早く集落が出現し、この付近の地形は、柳瀬川に注ぎ込む湧き水を流しだす小さな谷を持つ。</p> <p>○弥生時代後期 先に形成された集落の周辺にも集落が増加する。また、狭山丘陵付近も谷状の地形の周辺に集落が増加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 針ヶ谷遺跡(富士見市) ・ 竹間沢本村南遺跡(三芳町) ・ 古井戸山遺跡(三芳町) ・ 中野遺跡(新座市) ・ 針ヶ谷北通遺跡(富士見市) ・ 西原大塚遺跡(志木市) ・ 下宿内山遺跡(清瀬市) ・ 野塩前遺跡(清瀬市) ・ 日向遺跡(所沢市) ・ 東の上遺跡(所沢市) ・ 宮前遺跡(所沢市) ・ 吉祥山遺跡(東村山市)
古墳	<p>○古墳時代後期(6世紀末～7世紀) 柳瀬川流域には、稲作の舞台となる大規模な沖積低地がなかったためか、際立った遺跡や古墳は後期まで現れない。後期にはいくつかの集落と古墳、横穴墓(終末期古墳の形態、崖線に横穴を掘った埋葬施設)が現れる。中流域左岸には発達した崖線を利用した横穴墓群が残されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北通遺跡(富士見市) ・ 針ヶ谷北通遺跡(富士見市) ・ 南通遺跡(富士見市) ・ 本村北遺跡(三芳町) ・ 柏の城遺跡(志木市) ・ 大塚古墳群(志木市) ・ 滝の城横穴墓群(所沢市) ・ 北秋津横穴墓群(所沢市) ・ 山下後遺跡(小規模な古墳跡 所沢市) ・ 野竹遺跡(所沢市) ・ 美園上遺跡(所沢市) ・ 日向北遺跡(東村山市)

富士見市付近の台地縁辺の貝塚を伴う縄文集落跡

図 2-13 流域の歴史年表(1/3)

江戸時代の新田開発まで	戦国	鎌倉	平安	奈良
<p>ローム層に覆われ、水脈の深い台地上では、水を得ることは困難であった。また、火山灰土は肥料分には乏しく、開拓前の武蔵野台地の内陸部では、雑木すら繁茂できず、茅などが生い茂る草原であった。さらには季節風により軽い火山灰土の耕作土を吹き飛ばした。</p> <p>水場に近い台地縁辺や狭山丘陵の縁辺、河の近辺を除き、武蔵野台地内部の農村集落は江戸時代になつてから誕生したものがほとんどである。</p>	<p>○戦国時代</p> <p>柳瀬川の形成した皇線が要害となり、流域内にも城柵がいくつか形成される。</p>	<p>○鎌倉時代</p> <p>鎌倉幕府が関東やその周辺の支配を強固にするために行った主要道の整備の一環として、「武蔵路」が「鎌倉街道上道」として整備された。「武蔵路」が狭山丘陵付近で柳瀬川を横切る辺りから、川沿いに東へ向かう「鎌倉街道(奥州往路)」が整備されている。「鎌倉街道」の整備の一環として武蔵野台地では河川沿いに井戸が整備された可能性が高く、空堀川と「鎌倉街道」が交差する付近にはローT状の井戸が存在していたことが地元の資料に残されている。</p>	<p>○平安時代の終わり</p> <p>関東に台頭した武士団のうち、特に優れた集団の「武蔵七党」の中の「村山党」が狭山丘陵に拠点を置いたといわれる。柳瀬川に沿って村山党に關係する遺跡がある。</p>	<p>○奈良時代(7世紀～8世紀)</p> <p>武蔵国(多摩川流域に近い武蔵野台地を中心とした)から奈良に向かう道として「武蔵路(概ね府中街道)」が整備された。「武蔵路」と柳瀬川が交差するあたりに奈良平安時代の大集落が形成される。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・柏の城(跡志木市) ・滝の城(所沢市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・山口城跡(所沢市) ・山城・梶古城跡(狭山湖敷地内) 	<p>ローT状の井戸：堀面が広く、井戸水面に向けて徐々に狭くなっている。礫面が発達しているために開口を広く取れなかったことによる。</p> <p>山口上跡：方形に区画された武士の館跡と推定される。柳瀬川に面した部分に湧水(稚見ヶ池)を持ち、この付近の水管理が武士によって行われていたことが推定される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東の上遺跡(武蔵路と柳瀬川の交差点 所沢市) ・下宅部遺跡(武蔵路と北側の交差点 東村山市) <p>下宅部遺跡は「悲田処」候補地として注目されている。悲田処：旅人が御えすための宿や食事を提供する施設。仏教の施しの思想に基づくもの。</p>	

図 2-14 流域の歴史年表(2/3)

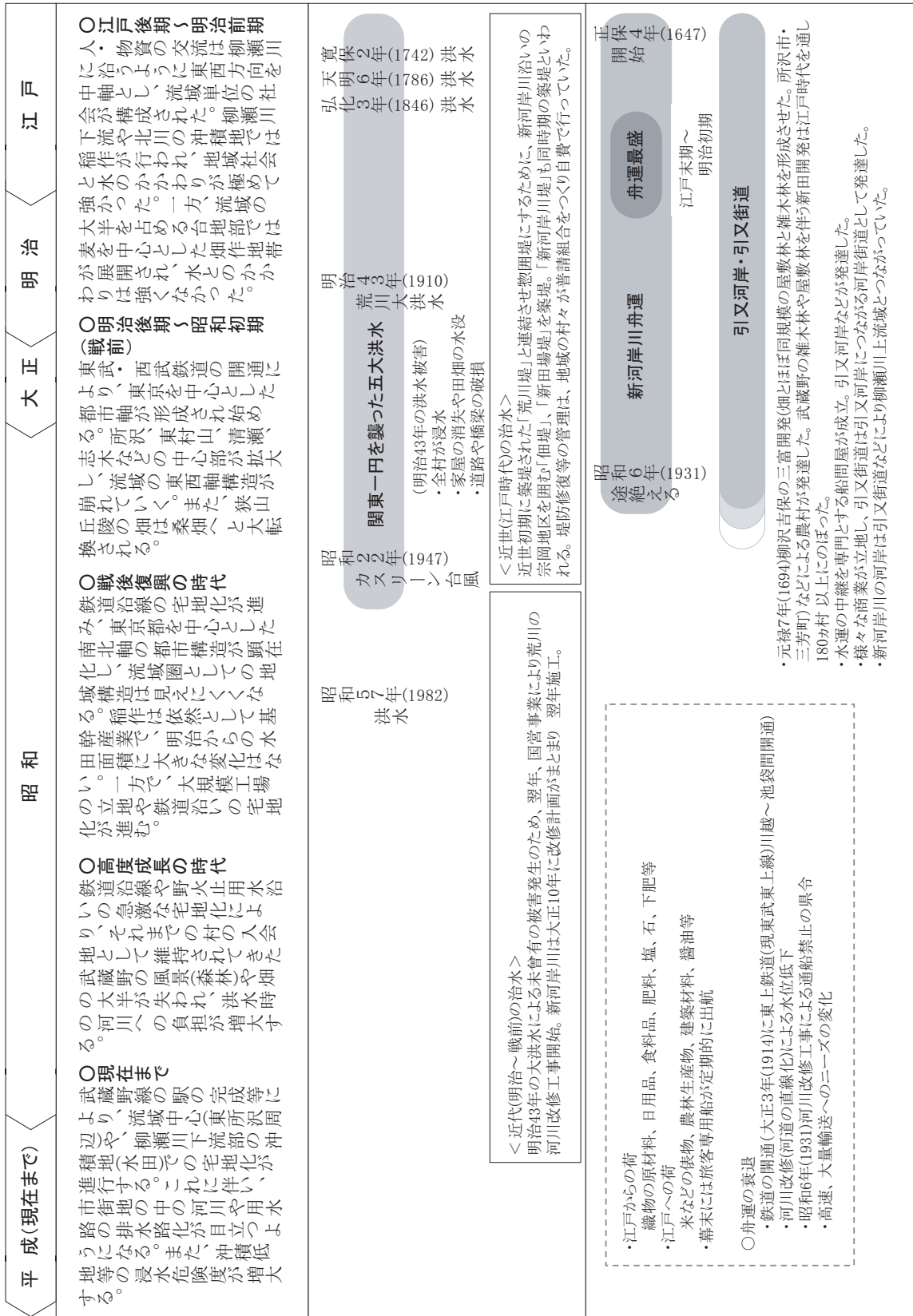


図 2-15 流域の歴史年表(3/3)

(2) 流域の文化

水田が広がっていた柳瀬川下流域や新河岸川の沿川には、地域の生活との関わりの深さを感じさせる独特の「水の文化」を見ることができます。

1) 水に関わる信仰

稲作や舟運など水との関わりが深いほど、航行安全や河岸場の安全祈願、水難除けとして、多くの水神が祀られています。中でも大杉様は天狗が飛来し水難から救うと信じられ、船頭や船問屋の信仰が厚かったようです。

表 2-3 水に関わる信仰

種 別	由 来	神社・碑・祠 <small>ほこら</small>
すいじんじゃ 水神社	航行安全、お産の神	①天神社（志木市宗岡） ②宮戸神社（朝霞市宮戸） ③氷川神社（志木市宗岡） ④不動堂（志木市柏町） ＜水神碑＞ ①志木市中宗岡（2ヶ所） ②志木市本町（2ヶ所）
すいじん 水神	水の神	屋内神・屋敷神（各地区）
水天宮	水の神、安産の神	屋内神・屋敷神（各地区）
弁財天	農家では水の神、商家では蓄財の神	①宝鐘寺（志木市柏町） ②屋内神・屋敷神（各地区）
かわみずかみ 川水神	野火止用水浴いの家で水路の ほとりに幣をさして祀ったもの	野火止用水浴いの農家
井戸神	井戸を守る神	屋内神・屋敷神（各地区）
りゅうじゃさま 竜蛇様	水の神	屋内神・屋敷神（各地区）
雨乞い信仰	干ばつに苦しむ人々が、水を求めて 行う遠隔地への参詣による信仰	①信州戸隠産九頭龍権現御供講（志木市） ②大山講（志木市） ③有馬谷大淵（志木市） ④武州御嶽山（志木市）
船玉神社	船頭・大工・漁民で祀る。また、 酒造業者の酒槽にも祀られた。	志木市本町（旧引又宿）等 工場や屋敷内（消滅）
精米神社	米と水が命であった酒造業者、 醤油業者が祀った。	志木市本町（旧引又宿）等 工場や屋敷内（消滅）
松尾神社	酒造の神	志木市本町（旧引又宿）等 工場や屋敷内（消滅）
愛染神社	染物の神	志木市（旧引又宿・宗岡地区等）の工場や 屋敷内（消滅）

2) 水に関わる行事・祭り、伝承・伝説

流域の水に関わる行事・祭り、伝承・伝説は、稲作や舟運が盛んであった新河岸川・柳瀬川下流域に集中しており、水と日常生活が強い関わりを持っていたようです。一方、柳瀬川流域の台地や丘陵地域では、水に関わる行事・伝承等はあまり見受けられません。

表 2-4 水に関わる行事・祭り

新河岸川	柳瀬川	空堀川
<p>【冬・正月】</p> <p>①^{すす}煤掃き流し（志木市）</p> <p>【春】</p> <p>①雛飾り流し（志木市）</p> <p>②茅の輪流し（志木市）</p> <p>【夏・盆】</p> <p>①御輿の^{みそ}禊ぎ（志木市）</p> <p>②灯籠流し（志木市）</p> <p>③七夕飾り流し（志木市）</p> <p>④盆流し（志木市）</p> <p>⑤盆流し（富士見市）</p> <p>【秋】</p> <p>①お日待ち（志木市）</p> <p>②川浸り餅（志木市）</p> <p>③水垢離（志木市）</p>	<p>【冬・正月】</p> <p>①正月の若水（所沢市）</p> <p>【春】</p> <p>①坂迎え（清瀬市）</p> <p>②川ざらい（新座市）</p> <p>③井戸かいと井戸縄ない（所沢市）</p> <p>【夏・盆】</p> <p>①雨乞い（清瀬市、東村山市、志木市）</p> <p>②灯籠流し（清瀬市）</p> <p>③七夕飾り流し（清瀬市）</p> <p>④七夕時髪洗い（清瀬市）</p> <p>⑤盆流し（富士見市）</p> <p>⑥虫送り（志木市）</p> <p>【秋】 特になし</p>	<p>【冬・正月】</p> <p>特になし</p> <p>【春】</p> <p>特になし</p> <p>【夏・盆】</p> <p>①七夕時髪洗い（清瀬市）</p> <p>②盆飾り流し（東大和市）</p> <p>【秋】 特になし</p>

表 2-5 水に関わる伝承・伝説

新河岸川	柳瀬川	空堀川
<p>①東南の雷は大洪水の年（志木市）</p> <p>②かっぱに相撲を仕掛けられた話（志木市）</p> <p>③かっぱを相撲で負かした話（志木市）</p> <p>④蟹坂（志木市）</p>	<p>①かっぱの詫び証文（所沢市）</p> <p>②蛇に当てられた話（志木市）</p> <p>③お鷹橋と鬼女の話（志木市）</p> <p>④^{うば}姥袋（志木市）</p> <p>⑤水中の怪物（志木市）</p> <p>⑥篠崩れの怪（志木市）</p> <p>⑦おえん淵（志木市）</p> <p>⑧戸尻の由来（志木市）</p> <p>⑨和尚さんとかっぱ（志木市）</p> <p>⑩^{かしら}首無しと^{かしら}首弁天（志木市）</p> <p>⑪軍伝田（志木市）</p> <p>⑫かしらなし沼（新座市）</p> <p>⑬強清水（新座市）</p>	<p>①梅坂と梅坂橋（清瀬市）</p>

2.5 柳瀬川流域の水量・水質

(1) 水量の経年変化

上流側では、下水道の整備に伴う生活雑排水の減少が河川水量の減少に影響していると考えられます(二柳橋、梅坂橋)。一方、下流側では、下水処理場からの処理水の放流が河川水量の増加に影響していると考えられます(城下橋、栄橋)。

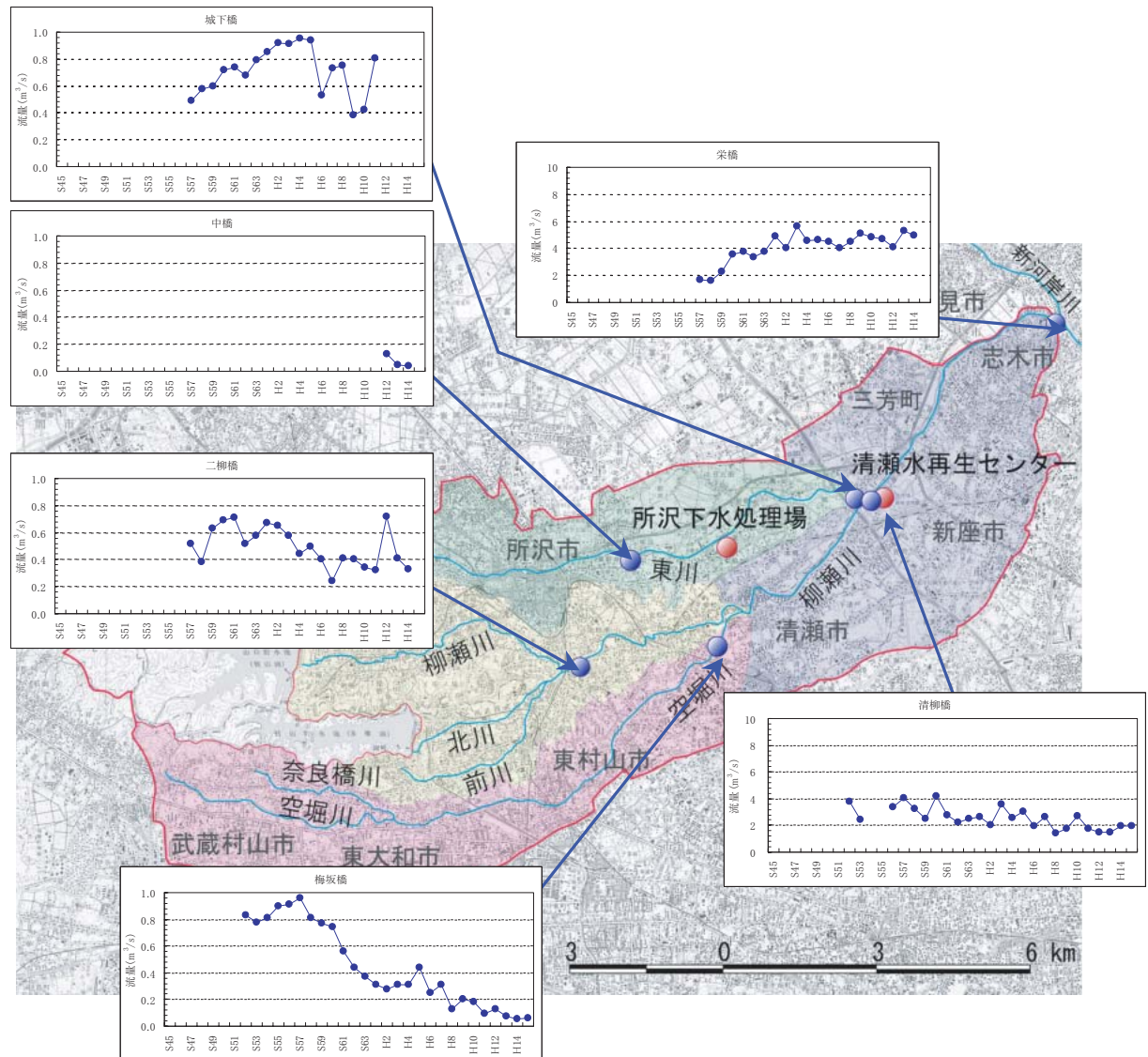


図 2-16 水量の経年変化¹⁵

¹⁵ 東京都、埼玉県：公共用水域及び地下水の水質測定結果, 昭和45年～平成15年 をもとに作成
背景 国土地理院:1/50,000 地形図

(2) 水質の経年変化

昭和50年代までは、全体的に水質が悪かったものが、下水道の整備に伴って改善されており、近年では、各地点で環境基準値(E類型:BOD10mg/l)¹⁶を達成しています。しかし、東川下流域地点では水質改善の傾向が見られません。

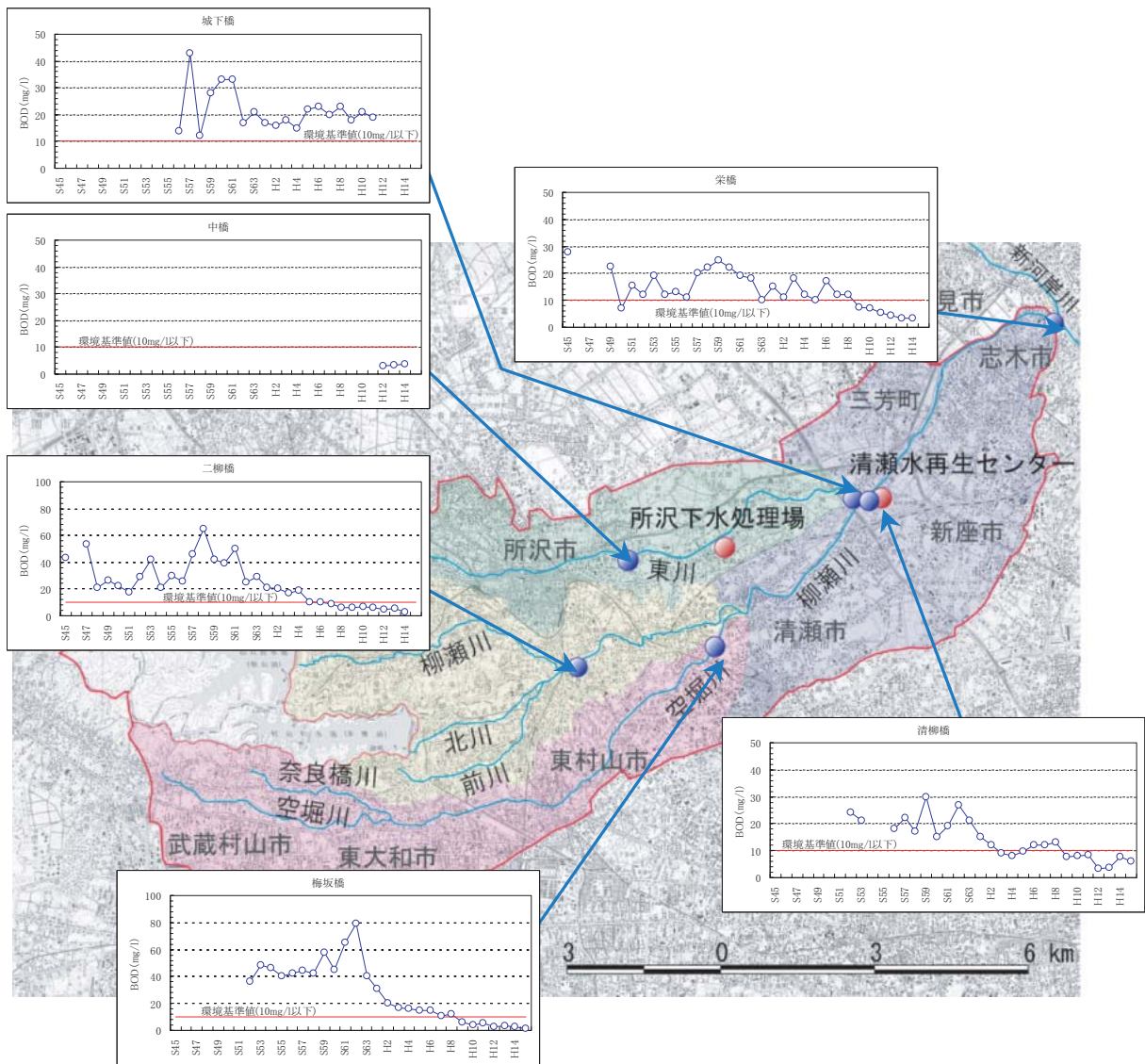


図 2-17 水質の経年変化¹⁷

¹⁶ 埼玉県では、平成15年3月末より環境基準値をC類型:BOD5mg/lとしている。

¹⁷ 東京都、埼玉県：公共用水域及び地下水の水質測定結果、昭和45年～平成15年をもとに作成
背景 国土地理院:1/50,000 地形図